

JC971 U.S. PRO

09/843415



This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

2000年 4月28日

出願番号  
Application Number:

特願 2000-129215

出 願 人  
Applicant (s):

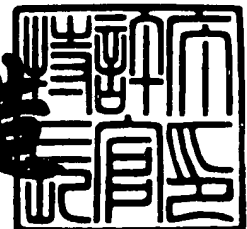
ソニー株式会社

**CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT**

2001年 3月 2日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 0000414408

【提出日】 平成12年 4月28日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 H04N 7/20

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 森永 剛男

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 湯沢 啓二

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 加賀美 篤

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 山本 巖

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100082762

【弁理士】

【氏名又は名称】 杉浦 正知

【電話番号】 03-3980-0339

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 043812

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9708843

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報送信方法及び装置、情報受信方法及び装置、情報記録方法及び装置、並びに、情報記録再生方法及び装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオ packets を、所定長の transport packets に組み込んで送信するようにした情報送信方法において、

上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれる transport packets が送られるのに対応して、ユニークな packet ID が記された marker packets を送るようにした情報送信方法。

【請求項 2】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれる transport packets の直前に、スタート marker packets を送るようにした請求項 1 に記載の情報送信方法。

【請求項 3】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれる transport packets の直前及び直後に、スタート marker packets 及びエンド marker packets を送るようにした請求項 1 に記載の情報送信方法。

【請求項 4】 所定長の transport packets に組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオ packets のストリームを受信する情報受信方法において、

上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれる transport packets が送られるのに対応して、ユニークな packet ID が記された marker packets が送られており、

入力される上記ストリームの packet ID から上記 marker packets を検出し

上記マーカーパケットから上記フレーム又はフィールド内符号化された画像を含む上記トランスポートパケットを識別する

ようにした情報受信方法。

【請求項 5】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前に送られてくるスタートマーカーパケットを検出するようにした請求項 4 に記載の情報受信方法。

【請求項 6】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前及び直後に送られてくるスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットを検出するようにした請求項 4 に記載の情報受信方法。

【請求項 7】 所定長のトランスポートパケットに組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットのストリームを、所定数の記録単位で蓄積デバイスに記録するようにした情報記録方法において、

上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケット ID が記されたマーカーパケットが送られており、

入力される上記ストリームのパケット ID から、上記マーカーパケットを検出し、

上記マーカーパケットから、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データのトランスポートパケットを識別し、

上記識別結果に基づいて、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を上記トランスポートパケットに付加し、

上記付加された上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を上記蓄積デバイスへの記録単位毎にカウントし、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位毎に付加する

ようにしたことを特徴とする情報記録方法。

【請求項 8】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれ

るトランスポートパケットの直前に送られてくるスタートマーカerpケットを検出するようにした請求項7に記載の情報記録方法。

【請求項9】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前及び直後に送られてくるスタートマーカerpケット及びエンドマーカerpケットを検出するようにした請求項7に記載の情報記録方法。

【請求項10】 所定長のトランスポートパケットに組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットのストリームを、所定数の記録単位で蓄積デバイスに記録再生するようにした情報記録再生方法において、

上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケットIDが記されたマーカerpケットが送られており、

記録時には、入力される上記ストリームのパケットIDから、上記マーカerpケットを検出し、

上記マーカerpケットから、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データの上記トランスポートパケットを識別し、

上記識別結果に基づいて、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を上記トランスポートパケットに付加し、

上記付加された上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を上記蓄積デバイスへの記録単位毎にカウントし、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位毎に付加しておき、

再生時には、上記記録単位毎に付加された上記カウント結果に基づいて、上記蓄積デバイスから上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを含む記録単位を再生して変速再生を行う

ようにした情報記録再生方法。

【請求項11】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前に送られてくるスタートマーカerpケットを

検出するようにした請求項 1 0 に記載の情報記録再生方法。

【請求項 1 2】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前及び直後に送られてくるスタートマーカパケット及びエンドマーカパケットを検出するようにした請求項 1 0 に記載の情報記録再生方法。

【請求項 1 3】 フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットを、所定長のトランスポートパケットに組み込んで送信するようにした情報送信装置において、

上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケット I D が記されたマーカパケットを送る手段

を設けるようにしたことを特徴とする情報送信装置。

【請求項 1 4】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前に、スタートマーカパケットを送るようにした請求項 1 3 に記載の情報送信装置。

【請求項 1 5】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前及び直後に、スタートマーカパケット及びエンドマーカパケットを送るようにした請求項 1 3 に記載の情報送信装置。

【請求項 1 6】 所定長のトランスポートパケットに組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットのストリームを受信する情報受信装置において、

上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケット I D が記されたマーカパケットが送られており、

入力される上記ストリームのパケット I D から、上記マーカパケットを検出

する手段と、

上記マーカーパケットから、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像を含む上記トランスポートパケットを識別する手段と

を設けるよようにした情報受信装置。

【請求項 1 7】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前に送られてくるスタートマーカーパケットを検出するようにした請求項 1 6 に記載の情報受信装置。

【請求項 1 8】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前及び直後に送られてくるスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットを検出するようにした請求項 1 6 に記載の情報受信装置。

【請求項 1 9】 所定長のトランスポートパケットに組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットのストリームを、所定数の記録単位で蓄積デバイスに記録するようにした情報記録方法において、

上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケット ID が記されたマーカーパケットが送られており、

入力される上記ストリームのパケット ID から、上記マーカーパケットを検出する手段と、

上記マーカーパケットから、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データの上記トランスポートパケットを識別する手段と、

上記識別結果に基づいて、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を上記トランスポートパケットに付加する手段と、

上記付加された上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を上記蓄積デバイスへの記録単位毎にカウントする手段と、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位毎に付加する手段とを設けるよようにしたことを特徴とする情報記録装置。

【請求項 2 0】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前に送られてくるスタートマーカールパケットを検出するようにした請求項 1 9 に記載の情報記録装置。

【請求項 2 1】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前及び直後に送られてくるスタートマーカールパケット及びエンドマーカールパケットを検出するようにした請求項 1 9 に記載の情報記録装置。

【請求項 2 2】 所定長のトランスポートパケットに組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットのストリームを、所定数の記録単位で蓄積デバイスに記録再生するようにした情報記録再生装置において、

上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケット I D が記されたマーカールパケットが送られており、

記録時に、入力される上記ストリームのパケット I D から、上記マーカールパケットを検出する手段と、

上記マーカールパケットから、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データの上記トランスポートパケットを識別する手段と、

上記識別結果に基づいて、上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を上記トランスポートパケットに付加する手段と、

上記付加された上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を上記蓄積デバイスへの記録単位毎にカウントする手段と、

上記カウント結果を上記蓄積デバイスへの記録単位毎に付加する手段とを備え  
ると共に、

再生時に、上記記録単位毎に付加された上記カウント結果に基づいて、上記蓄積デバイスから上記フレーム又はフィールド内符号化された画像データを含む記録単位を再生して変速再生を行う手段と

を設けるようにしたことを特徴とする情報記録再生装置。

【請求項 2 3】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前に送られてくるスタートマーカパケットを検出するようにした請求項 2 2 に記載の情報記録再生装置。

【請求項 2 4】 上記フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットの直前及び直後に送られてくるスタートマーカパケット及びエンドマーカパケットを検出するようにした請求項 2 2 に記載の情報記録再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

この発明、例えば、B S (Broadcast Satellite) 放送で、夜間、放送が終了した時間帯を利用してコンテンツの情報を配信し、このコンテンツの情報をストレージ部に蓄積して再生するようにしたシステムに用いて好適な情報送信方法及び装置、情報受信方法及び装置、情報記録方法及び装置、並びに、情報記録再生方法及び装置に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

デジタル B S 放送では、1 トランスポンダの帯域を利用して、複数のプログラムの放送が行われている。これらのデジタル B S 放送で放送される通常のプログラムの中には、放送する時間帯が昼間に限られており、夜間になると放送終了するものがある。このため、夜間、通常の放送が終了すると、トランスポンダの帯域に空き帯域が生じる。そこで、このように、夜間、放送が終了した後に生じるトランスポンダの空き帯域を有効利用して、コンテンツの配信を行うことが考えられている。

【0 0 0 3】

つまり、デジタル B S 衛星では、例えば、3 0 M b p s 帯域のトランスポンダが 8 個搭載されている。この 1 トランスポンダで、S D T V (Standard Definition Television) 放送なら例えば 6 チャンネル、H D T V (High Definition Television) 放送なら例えば 2 チャンネルの伝送が可能である。通常の放送では

、例えば、夜中の1時から朝5時まで、放送が行われていない。

【0004】

このように、夜間、放送が終了し、トランスポンダに空き帯域が生じる間に、トランスポンダの空き帯域を利用して、コンテンツ配信のための放送が行われる。このコンテンツの情報は、各家庭の受信機で受信され、各家庭の受信機にあるハードディスクドライブのようなストレージデバイスに一旦蓄積される。そして、このコンテンツの情報は、各家庭の受信端末のストレージデバイスから読み出され、各家庭のテレビジョン受像機で再生される。

【0005】

このように、夜間、放送が終了し、トランスポンダに空き帯域が生じる間に、トランスポンダの空き帯域を利用してコンテンツの情報を送り、このコンテンツの情報を各家庭の受信端末のストレージデバイスに蓄積しておくことで、トランスポンダの空き帯域を有効利用して安価にコンテンツの情報を送ることができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、このようなシステムでは、ストレージデバイスにMPEG2のトランスポートストリームがそのまま記録されるため、キュー／レビューなどのトリックプレーを行うことが困難になる。

【0007】

つまり、MPEG2のビデオパケットでは、そのフレーム（又はフィールド）内で符号化されたIピクチャと、その前フレーム（又はフィールド）を使って符号化されたPピクチャと、その前後のフレーム（又はフィールド）を使って符号化されたBピクチャとが送られてくる。キュー／レビューなどのトリック再生を行うときには、Iピクチャを使う必要がある。したがって、MPEG2ビデオストリームをそのままストレージデバイスに記録する場合、トリック再生を行うときには、Iピクチャのビデオパケットを確実に再生しなければならない。

【0008】

そこで、本願出願人は、先に、TSパケットに記述されている識別コード（pi

cture Coding type ) からピクチャタイプを識別し、I ピクチャの場合にはコードマークビットを立て、コードマークビットをカウントし、コードマーク値としてインデックス情報に付加して記録するようにしたものを提案している。このようにすると、インデックス情報からI ピクチャを再生して、トリック再生を行うことができる。

#### 【0009】

しかしながら、上述の例では、TS パケットに記述されている識別コードからピクチャタイプを識別しており、この識別コードが検出できないと、トリック再生を行うことが困難である。上述のように、放送が終了し、トランスポンダに空き帯域が生じる間にトランスポンダの空き帯域を利用してコンテンツの配信するシステムでは、コンテンツの保護を図るために、ストリームを暗号化することが考えられる。ストリームが暗号化されていると、上述のように識別コードを解析してI ピクチャを識別することができなくなってしまう。

#### 【0010】

したがって、この発明の目的は、ストレージデバイスに送られてきたTS ストリームを記録するような場合に、ストリームが暗号化されていても、トリック再生が容易に行えるようにした情報送信方法及び装置、情報受信方法及び装置、情報記録方法及び装置、並びに、情報記録再生方法及び装置を提供することにある。

#### 【0011】

##### 【課題を解決するための手段】

この発明は、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットを、所定長のトランスポートパケットに組み込んで送信するようにした情報送信方法及び装置において、

フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケットIDが記されたマーカーパケットを送るようにした情報送信方法及び装置である。

【 0 0 1 2 】

この発明は、所定長のトランスポートパケットに組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットのストリームを受信する情報受信方法及び装置において、

フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケット I D が記されたマーカーパケットが送られており、

入力されるストリームのパケット I D からマーカーパケットを検出し、

マーカーパケットからフレーム又はフィールド内符号化された画像を含むトランスポートパケットを識別する

ようにした情報受信方法及び装置である。

【 0 0 1 3 】

この発明は、所定長のトランスポートパケットに組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットのストリームを、所定数の記録単位で蓄積デバイスに記録するようにした情報記録方法及び装置において、

フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケット I D が記されたマーカーパケットが送られており、

入力されるストリームのパケット I D から、マーカーパケットを検出し、

マーカーパケットから、フレーム又はフィールド内符号化された画像データのトランスポートパケットを識別し、

識別結果に基づいて、フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報をトランスポートパケットに付加し、

付加されたフレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を蓄積デバイスへの記録単位毎にカウントし、

カウント結果を蓄積デバイスへの記録単位毎に付加する  
ようにしたことを特徴とする情報記録方法及び装置である。

## 【 0 0 1 4 】

この発明は、所定長のトランスポートパケットに組み込まれた、フレーム又はフィールド内で符号化された画像データと、前方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データと、双方向フレーム又はフィールド間で符号化された画像データとからなるビデオパケットのストリームを、所定数の記録単位で蓄積デバイスに記録再生するようにした情報記録再生方法及び装置において、

フレーム又はフィールド内で符号化された画像が含まれるトランスポートパケットが送られるのに対応して、ユニークなパケットIDが記されたマーカーパケットが送られており、

記録時には、入力されるストリームのパケットIDから、マーカーパケットを検出し、

マーカーパケットから、フレーム又はフィールド内符号化された画像データのトランスポートパケットを識別し、

識別結果に基づいて、フレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報をトランスポートパケットに付加し、

付加されたフレーム又はフィールド内符号化された画像データを示す情報を蓄積デバイスへの記録単位毎にカウントし、

カウント結果を蓄積デバイスへの記録単位毎に付加しておき、

再生時には、記録単位毎に付加されたカウント結果に基づいて、蓄積デバイスからフレーム又はフィールド内符号化された画像データを含む記録単位を再生して変速再生を行う

ようにした情報記録再生方法及び装置である。

## 【 0 0 1 5 】

Iピクチャの開始する直前及び直後に、スタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットが送られる。このスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットには、ユニークなPIDが記されている。受信時には、このスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットを識別することで、Iピクチャのピ

デオパケットが識別される。そして、記録時に、このスタートマーカパケット及びエンドマーカパケットから、IピクチャのTSパケットを検出し、このIピクチャのTSパケットにコードマークを立て、クラスタ単位でハードディスクドライブに記録する際に、コードマークをカウントし、このコードマークのカウント値をインデックス情報に付加するようにしている。再生時には、このインデックス情報から、IピクチャのTSパケットの含まれているクラスタが分かり、これにより、トリック再生を行うことができる。このように、この発明では、Iピクチャの開始する直前及び直後に、ユニークなPIDのスタートマーカパケット及びエンドマーカパケット送ってIピクチャを識別しているので、暗号化されたストリームの場合でも対応できる。

【 0 0 1 6 】

## 【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施の形態について図面を参照して説明する。図1は、デジタルBS放送を利用してコンテンツの情報を配信するシステムの一例を示すものである。この発明は、このようなシステムに適用できる。図1において、1は放送局、2はデジタルBS (Broadcast Satellite) 放送の衛星、3は受信端末である。

【 0 0 1 7 】

放送局1は、デジタルBS放送を行っている。デジタルBS放送は、例えば12GHz帯(周波数11.7GHz~12GHz)の帯域を使って、デジタルで映像及び音声の放送を行っている。デジタルBS放送では、ビデオデータはMPEG (Moving Picture Coding Experts Group) 2方式で圧縮され、オーディオデータはACC (Advanced Audio Coding) 方式で圧縮される。そして、ビデオパケット及びオーディオパケットは、MPEG2-TSのストリームに組み込まれ、例えばトリレス8PSK (Phase Shift Keying) 又はBPSK (Binary Phase Shift Keying) で変調され、所望の搬送波で送信される。

【 0 0 1 8 】

衛星2は、例えば、30Mbps帯域のトランスポンダを例えば8個搭載している。30Mbpsのトランスポンダは、SDTV (Standard Definition Tele

vision) 放送なら例えば6チャンネル、HDTV (High Definition Television) 放送なら例えば2チャンネルの伝送が可能である。

【0019】

このシステムでは、例えば、夜間、使われなくなった帯域を利用して、コンテンツ配信の放送を行うことができる。

【0020】

つまり、上述のように、デジタルBS放送では、1トランスポンダ当たりの帯域は30Mbpsであり、この1トランスポンダでSDTV放送なら例えば6チャンネル、HDTV放送なら例えば2チャンネルの伝送が可能である。デジタルBS放送の中には、夜間、放送を終了しており、トランスポンダに空き帯域が生じる場合がある。そこで、このような空き帯域を有効利用して、コンテンツ配信の放送を行うことが考えられる。

【0021】

放送局1からの信号は、衛星2を介して、各家庭の受信端末3で受信される。各家庭の受信端末3は、受信機4と、テレビジョン受像機5とからなる。受信機4は、放送局1から、衛星2を介して送られてきた信号を受信し、MPEG-2-TSパケットストリームを復調し、このTS (Transport Stream) パケットストリームから所望のチャンネルのビデオパケット及びオーディオパケットを取り出し、ビデオ信号とオーディオ信号とをデコードするものである。受信機4でデコードされたビデオ信号及びオーディオ信号は、テレビジョン受像機5に供給され、テレビジョン受像機5に再生画面が映出される。

【0022】

また、受信機4には、ストレージ部7が設けられている。このストレージ部7は、夜間、空き帯域を有効利用して送られてくるコンテンツ配信の放送のために設けられている。

【0023】

上述のように、このシステムでは、夜間、通常の放送が終了し、トランスポンダに空き帯域が生じる場合に、この空き帯域を利用して、コンテンツ配信のための放送が行われる。この信号は、受信機4のチューナ部6で受信され、ストレ

ジデバイス 7 に一旦蓄積される。そして、ストレージデバイス 7 から読み出され、テレビジョン受像機 5 で再生される。

## 【0024】

放送局 1 からコンテンツを送る場合、コンテンツの保護を図るために、ストリームを暗号化して送ることができる。しかしながら、ストリームを暗号化して送ると、ピクチャタイプが識別できなくなり、キュー／レビュー等のトリック再生を行うのが困難になる。

## 【0025】

そこで、この発明の実施の形態では、I ピクチャの開始する直前及び直後に、スタートマーカークラケット及びエンドマーカークラケットが送られる。このスタートマーカークラケット及びエンドマーカークラケットには、ユニークな P I D (Packet ID) が記されている。このスタートマーカークラケット及びエンドマーカークラケットを識別することで、I ピクチャのビデオクラケットが識別される。

## 【0026】

図 2 は、コンテンツ配信の放送を行う放送局 1 の構成を示すものである。図 2 において、11A、11B、…は、通常放送を行うための放送信号処理部を示し、21 はコンテンツ配信放送を行うための放送処理部を示している。

## 【0027】

通常放送の放送信号処理部 11A、11B、…では、ビデオソース 12A、12B、…からのビデオ信号がビデオエンコーダ 13A、13B、…に供給され、オーディオソース 15A、15B、…からのオーディオ信号がオーディオエンコーダ 16A に供給される。ビデオエンコーダ 13A、13B、…で、MPEG2 方式でビデオデータが圧縮され、ビデオクラケットが形成される。また、オーディオエンコーダ 15A、15B、…で、AAC 方式で、オーディオデータが圧縮され、オーディオクラケットが形成される。また、データ発生部 17A、17B、…から、選局情報や限定受信情報、番組情報等の P S I (Program Specific Information) が発生される。

## 【0028】

ビデオエンコーダ 13A、13B、…の出力と、オーディオエンコーダ 16A

、16B、…の出力と、データ発生部17の出力は、マルチプレクサ14A、14B、…に供給される。マルチプレクサ14A、14B、…で、ビデオデータ、オーディオデータ、PSIが多重化され、188バイトの固定長からなるTSパケットに組み入れられる。このマルチプレクサ14A、14B、…の出力は、マルチプレクサ17に供給される。

## 【0029】

コンテンツ配信放送の信号処理部21では、ビデオソース22からのビデオ信号がビデオエンコーダ23に供給され、オーディオソース25からのオーディオ信号がオーディオエンコーダ26に供給される。ビデオエンコーダ23で、MPEG2方式でビデオデータが圧縮され、ビデオパケットが形成される。また、オーディオエンコーダ25で、AAC方式で、オーディオデータが圧縮され、オーディオパケットが形成される。また、データ発生部27から、選局情報や限定受信情報、番組情報等のPSIが発生される。

## 【0030】

ビデオエンコーダ23の出力と、オーディオエンコーダ26の出力と、データ発生部27の出力は、マルチプレクサ24に供給される。マルチプレクサ24で、ビデオデータ、オーディオデータ、PSIが多重化され、188バイトの固定長からなるTSパケットに組み入れられる。

## 【0031】

なお、配信したいコンテンツを暗号化する必要がある。この場合には、マルチプレクサ24の出力が暗号化回路28に供給され、ストリームに対して暗号化処理が施される。また、暗号化して送る場合には、Iピクチャが識別できるように、マルチプレクサ24で、Iピクチャの直前及び直後に、ユニークなPIDを記したスタートマーカパケット及びエンドマーカパケットが付加される。

## 【0032】

マルチプレクサ17で、各通常放送の放送信号処理部11A、11B、…で形成された各チャンネルの通常放送のTSパケット、及びコンテンツ配信放送の信号処理部21で形成されたコンテンツ配信放送のTSパケットが多重化される。

## 【0033】

マルチプレクサ 1 7 の出力が変調部 3 0 に供給される。変調部 3 0 で、例えばトリレス 8 P S K 又は B P S K で変調処理が行われる。変調部 3 0 の出力が周波数変換部 3 1 に供給される。周波数変換部 3 1 で、使用されるトランスポンダの周波数に応じて、搬送波周波数が変換される。周波数変換部 3 0 の出力が増幅器 3 2 で増幅され、アンテナ 3 3 から出力される。

## 【 0 0 3 4 】

全てのチャンネルで通常放送が行われている昼間の時間では、通常放送の放送信号処理部 1 1 A、1 1 B、…が動作しており、トランスポンダの帯域は、通常放送のチャンネルで使用される。このときには、コンテンツ配信放送は行われおらず、コンテンツ配信放送の信号処理部 2 1 は動作していない。

## 【 0 0 3 5 】

夜間では、いくつかの通常放送のチャンネルは終了しており、トランスポンダに空き帯域が生じる。このときには、通常放送の放送信号処理部 1 1 A、1 1 B、…の中で放送が終了しているものの動作は行われなくなり、コンテンツ配信放送を行うために、コンテンツ配信放送の信号処理部 2 1 が動作する。

## 【 0 0 3 6 】

このようにして、夜間、放送が終了している間にトランスポンダの空き領域を利用して送られてきたコンテンツの送信処理が行われる。

## 【 0 0 3 7 】

図 3 は受信機 4 の構成を示すものである。この受信機は、デジタル衛星放送を受信した情報を蓄積するストレージデバイスとしてハードディスクドライブが内蔵されている。

## 【 0 0 3 8 】

図 3 において、アンテナ 6 1 で、デジタル衛星放送波が受信される。その受信信号は、チューナ 6 2 に出力される。チューナ 6 2 は、アンテナ 6 1 からの受信信号の復調等を行い、トランスポートストリームを得て、デスクランブラ 6 3 に供給する。デスクランブラ 6 3 は、C P U 5 1 の制御の下、チューナ 6 2 からのトランスポートストリームにかけられているスクランブルを、復号キーを用いて解き、ハードディスク制御部 8 0 に出力する。

## 【0039】

デスクランブラ613が出力されるトランスポートストリーム（以下、これを受信トランスポートストリームと呼ぶ。）は、ハードディスク制御部100に供給される。

## 【0040】

また、ハードディスク制御部100には、受信トランスポートストリームの他に、ハードディスクドライブ65のハードディスク92から再生されたトランスポートストリーム（以下、再生トランスポートストリームと称する）が供給される。

## 【0041】

受信トランスポートストリームを再生する場合には、ハードディスク制御部108は、入力される2つのトランスポートストリーム（受信トランスポートストリーム及び再生トランスポートストリーム）のうちの、受信トランスポートストリームを選択し、これを出力トランスポートストリームとして、リンクレイヤIC66に出力する。

## 【0042】

リンクレイヤIC66は、出力トランスポートストリームに対して、IEEE1394シリアルバスのレイヤ構造におけるリンク層の処理等を施し、また、リンクレイヤIC66は、出力トランスポートストリームを、デマルチプレクサ（DEMUX）68に出力する。

## 【0043】

物理レイヤIC67は、IEEE1394シリアルバスのレイヤ構造におけるリンク層の処理を行うようになされており、リンクレイヤIC66から、出力トランスポートストリームを受信した場合には、その出力トランスポートストリームを、IEEE1394シリアルバスを介して、図示せぬIEEE1394機器に、アイソクロナス転送する。

## 【0044】

デマルチプレクサ68は、リンクレイヤIC66から出力されるTSパケットから、セッションのデータ（PAT（Program Association Table）や、PMT

(Program Map Table)、トランスポートストリームのスクランブルをデスクランブルするための復号キー、その多の制御のために用いられる制御データ)が配置されたTSパケットを分離し、さらに、その内容を解析し、必要な制御データを、CPU51に出力する。

【0045】

CPU51は、以上のようにして、デマルチプレクサ68から供給されるセッションのデータのうちの復号キーを、デスクランブラ63に出力し、同じくデマルチプレクサ68から供給されるその他のセッションのデータに基づいて、デスクランブラ63を制御する。

【0046】

また、デマルチプレクサ68は出力トランスポートストリームから、制御データ(セッションのデータ)が配置されたTSパケットを分離する他、ユーザが図示せぬリモートコマンド等を操作することによって選択した番組のビデオデータ及びオーディオデータ(以下、これらをAVデータと称する)が配置されるパケットを分離して、AVデコーダ69に出力する。

【0047】

AVデコーダ69は、デマルチプレクサ68からのTSパケットを、MPEG2でデコードし、その結果得られるAVデータを、図示せぬモニタに出力する。これにより、モニタでは、デジタル衛星放送番組としての画像及び音声が出力(表示)される。

【0048】

一方、受信トランスポートストリームをハードディスク92に記録する場合には、ハードディスク制御部100は、入力される2つのトランスポートストリーム(受信トランスポートストリーム及び再生トランスポートストリーム)のうちの、受信トランスポートストリームを選択する。

【0049】

すなわち、図4に示すように、ハードディスク制御部100において、デスクランブラ63からの受信トランスポートストリームは、スイッチ81及び入力PID(Packet ID)パーサ101に供給される。入力PIDパーサ101は、デ

スクランブラ 6 3 からの受信トランスポートストリームを構成する T S パケットから、記録のみすべき T S パケット（以下、これを記録ようパケットと呼ぶ）、記録するとともに、制御に用いる T S パケット（以下、これを記録／制御用パケットと呼ぶ）、制御のみに用いる T S パケット（以下、これを制御用パケットと呼ぶ）を抽出し、記録用パケット及び記録／制御用パケットをコード検出部 1 5 1 を介してタイムスタンプ付加部 1 0 6 に出力するとともに、制御用パケットをマルチプレクサ 1 0 3 に出力する。

## 【 0 0 5 0 】

マルチプレクサ 1 0 3 は、入力 P I D パーサ 1 0 1 が出力する T S パケットと、出力 P I D パーサ 1 0 2 が出力するハードディスクから再生された T S パケットとを多重化し、スイッチ 8 1 に出力する。

## 【 0 0 5 1 】

タイムスタンプ付加部 1 0 6 は、入力タイマ 1 0 7 が出力するクロックに基づくタイムスタンプを入力された T S パケットに付加する。タイムスタンプ付加部 1 0 6 によりタイムスタンプが付加された T S パケットは、アービター 1 0 8 に供給される。アービター 1 0 8 に入力された T S パケットは、SDRAM コントローラ 1 0 9 の制御の下、SDRAM 1 0 0 の入力 F I F O 1 1 1 に記憶される。SDRAM コントローラ 1 0 9 は、F I F O コントローラ 1 1 3 の指示により、SDRAM 1 0 0 の入力 F I F O 1 1 1 と出力 F I F O 1 1 2 のパケットの書き込み、及び読み出しを制御する。

## 【 0 0 5 2 】

入力 F I F O 1 1 1 に記憶された T S パケットは、SDRAM コントローラ 1 0 9 の制御の下で読み出され、アービター 1 0 8 を介してインデックス付加部 1 1 4 に出力される。インデックス付加部 1 1 4 は、サーチ用スタンプ、L B A ( Logical Block Address )、ユーザ領域からなるインデックスをハードディスク 9 2 への記録単位である 5 1 2 バイトのクラスタに付加し、セクタ 1 1 7 に出力する。セクタ 1 1 7 には、バスインターフェース 7 9 を介して入力されたデータや DMA コントローラ 1 1 8 からのコマンド等も入力される。セクタ 1 1 7 は、入力された T S パケット、データ、コマンドなどを選択し、所定の装置に

出力する。例えば、インデックス付加部 1 1 4 から出力され、セクタ 1 1 7 に入力された T S パケットは、ハードディスクインターフェース 7 4 に出力され、更に、ハードディスクドライブ 6 5 に出力され、ハードディスク 9 2 に記録される。

## 【 0 0 5 3 】

このようにしてハードディスクドライブ 6 5 においてハードディスク 9 2 に記録された T S パケットを再生する場合、ハードディスクコントローラ 9 1 ( 図 3 ) において、ハードディスク 9 2 に記録された T S パケットのシーケンスとしての再生トランスポートストリームが読み出され、ハードディスク制御部 1 0 0 に出力される。ハードディスク制御部 1 0 0 において、ハードディスクインターフェース 7 4 を介して入力された再生トランスポートストリームは、セクタ 1 1 7 を介してインデックス検出部 1 1 6 に出力される。

## 【 0 0 5 4 】

インデックス検出部 1 1 6 は、入力された再生トランスポートストリームから、インデックス付加部 1 1 4 において付加されたインデックスを検出する。検出されたインデックスは、DMA コントローラ 1 1 8 内のレジスタに記憶され、DMA コントローラ 1 1 8 は、その記憶されたインデックスを基に、DMA コントローラ 1 1 8 を制御する。

## 【 0 0 5 5 】

インデックス検出部 1 1 6 によりインデックスが検出され、取り除かれた再生トランスポートストリームは、アービター 1 0 8、SDRAM コントローラ 1 0 9 を介して、SDRAM 1 0 0 の出力 F I F O 1 1 2 に、一旦記憶される。出力 F I F O 1 1 2 に記憶された再生トランスポートストリームは、SDRAM コントローラ 1 0 9 の制御の下、アービター 1 0 8 に読み出され、さらに、タイムスタンプ検出部 1 0 4 に出力される。タイムスタンプ検出部 1 0 4 は入力された再生トランスポートストリームからタイムスタンプを検出し、そのタイムスタンプに従って、T S パケット同士の時間間隔を元の状態に戻すようなタイミングで、再生トランスポートストリームを出力 P I D パーサ 1 0 2 に出力する。出力 P I D パーサ 1 0 2 は、タイムスタンプ検出部 1 0 4 から出力された再生トランスポ

ートストリームを受信し、その再生トランスポートストリームを構成するTSパケットから、再生すべき再生用パケットを抽出し、これをマルチプレクサ103に出力する。

#### 【0056】

マルチプレクサ103は、出力PIDパーサ102が出力するTSパケットと入力PIDパーサ101が出力するTSパケットとを多重化し、これをスイッチ81を介してリンクレイヤIC66に出力する。

#### 【0057】

リンクレイヤIC66は、スイッチ81から受け取った再生トランスポートストリームを物理レイヤIC67を介してIEEE1394シリアルバス状態をアイソクロナス転送し、あるいは、デマルチプレクサ68及びデコーダ69を介してモニタに出力する。

#### 【0058】

ここで、受信トランスポートストリームをハードディスク92に記録する場合、ハードディスク制御部100においてIピクチャを識別し、その識別結果を各クラスタのインデックス情報に付加するようになされている。

#### 【0059】

この発明の実施の形態では、Iピクチャの直前と直後に必ずマーカパケットを挿入するようにし、このマーカパケットを検出して、Iピクチャを判断するようにしている。

#### 【0060】

つまり、この例では、Iピクチャの直前には、スタートマーカパケットが送られ、Iピクチャの直後には、エンドマーカパケットが送られる。スタートマーカパケットには、他に使用されていないユニークなPID（ここでは、「PID=1」）が付され、エンドマーカパケットには他に使用されていないユニークなPID（ここでは、「PID=2」）が付されている。

#### 【0061】

図5の例では、TSパケットP1、P2、P3、…のうち、Iピクチャの直前のTSパケットP2のPIDは「PID=1」とされ、Iピクチャの直後のTS

パケットP9のPIDは「PID=2」とされ、それ以外のTSパケットのPIDは、そのチャンネルのビデオパケットを示す「PID=3」とされている。

## 【0062】

図6でフローチャートで示すように、受信トランスポートストリームをハードディスク92に記録する場合、ハードディスク制御部100においてIピクチャの直前及び直後のスタートマーカーパーケット及びエンドマーカーパーケットが識別され、その識別結果を各クラスタのインデックス情報に付加するようにしている。

## 【0063】

すなわち、図6に示すように、ハードディスク制御部100は、ステップSP1からハードディスクへの記録処理手順に入ると、続くステップSP2において、入力PIDパーサ101で、各TSパケットのPIDを識別して、ステップSP3でスタートマーカーパーケットか否かを判断する。図5の例なら、「PID=1」のパケットを識別して、スタートマーカーパーケットか否かを判断する。ステップSP3において否定結果が得られると、ステップSP2に戻って、続くTSパケットの解析を行う。

## 【0064】

ステップSP3において肯定結果が得られると、このとき解析しているTSパケットはスタートマーカーパーケットであるから、これに続くTSパケットはIピクチャであると判断され、ハードディスク制御100は続くステップSP4に移る。

## 【0065】

ステップSP4において、ハードディスク制御部100は、ステップSP3においてスタートマーカーパーケットであると判断されたら、その次のTSパケットから、タイムスタンプ付加部106により、TSパケットの先頭部分に付加されるタイムスタンプのさらに先頭部分に、対応するチャンネルのIピクチャのスタートを示すコードマークビットを立てる。

## 【0066】

すなわち、図7Aに示すように、188バイトのTSパケットの先頭部分には

タイムスタンプ付加部 106 によって 26 ビットのタイムスタンプが付加される。スタートマーカーパケットが識別されたら、ステップ SP4 で、スタートマーカーパケットの次の TS パケットからは、コードマークビット CMB が立てられる。

## 【0067】

このコードマークビット CMB は、各チャンネル毎に対応したビットを有し、チャンネルに対応したビットがコードマークとして立てられる。

## 【0068】

例えば、このとき解析している TS パケットの PID が第 1 のチャンネルを表す場合、コードマークビットとして、第 1 のチャンネルに対応した第 1 のビット（図 7A に示すコードマークビット CMB の「A」の位置のビット）が立てられる。

## 【0069】

そして、ステップ SP5 において、各 TS パケットの PID を識別して、ステップ SP6 でエンドマーカーパケットか否かを判断する。図 5 の例なら、「PID=2」のパケットを識別して、エンドマーカーパケットか否かを判断する。ステップ SP6 において否定結果が得られると、ステップ SP4 に戻る。

## 【0070】

ステップ SP6 で肯定結果が得られると、タイムスタンプ付加部 106 により、対応するチャンネルの I ピクチャのエンドを示すコードマークビットを立てる。

## 【0071】

それから、ステップ SP8 に移り、ハードディスク 92 に記録されている単位であるクラスタ毎に、コードマークカウンタ 110 によって、コードマークをカウントする。

## 【0072】

このカウントと結果は、図 7B に示すように、各チャンネル毎に分けてクラスタのインデックス情報とし付加される。各チャンネル毎のコードマークのカウント値（以下、コードマーク値と呼ぶ）は、それぞれ 2 バイト単位で記述される。

## 【0073】

このようにしてコードマーク値がインデックスに記述されると、ハードディスク制御部100は、ステップSP8に移り、各クラスタをハードディスクドライブ65に送出することによりハードディスク92に記録して、ステップSP9において処理手順を終了する。

## 【0074】

以上のようにしてハードディスク92に各TSパケットがクラスタ単位で記録された状態において、ハードディスク92から所定チャンネルのストリームをトリックプレーで再生（飛び越し高速再生）する場合について説明する。

## 【0075】

ハードディスク制御部100のDMAコントローラ118は、ユーザの入力操作によりトリックプレー再生が指定されると、図8に示すように、トリックプレー再生処理手順にステップSP11から入り、続くステップSP12において、ハードディスク92からクラスタを読み出す。

## 【0076】

続くステップSP13において、インデックス検出部116はハードディスク92から読み出されたクラスタからインデックスを検出し、検出したインデックスに書き込まれているコードマーク値をこのとき再生しようとするチャンネルについて積算する。すなわち、図7Bについて上述したチャンネル毎に2バイト単位で記述されているコードマーク値CMVの中から、このとき再生するチャンネルに対応するコードマークを検出し、これを積算する。

## 【0077】

そして、コードマーク値の積算結果が「1」となったとき、このことはこのとき読み出されたクラスタC2（図9）内のTSパケットにIピクチャを含むパケットが1つ存在することを表している。この場合、Iピクチャが先頭に位置するGOP構造の特徴に基づいて、このとき読み出されたクラスタにGOPの先頭が存在することが分かる。

## 【0078】

そして、この場合においてDMAコントローラ118はさらにステップSP1

5に移り、このとき読み出したクラスタC2に連続するクラスタC3を読み出し、読み出されたクラスタのコードマーク値を前回積算された結果にさらに積算する。

#### 【0079】

そして、DMAコントローラ118はステップSP13、ステップSP14及びステップSP15の処理を繰り返し、コードマーク値の積算結果が2以上となるとき、このことはこれまで連続して読み出したクラスタ（例えば図9に示すように、クラスタC1、C2、C3及びC4）内にIピクチャの開始コードを含むTSパケットが2つ以上存在すること、すなわち、2つのGOPの先頭が存在し、少なくとも1つの完全なGOP1が存在することを表しており、DMAコントローラ118は、ステップSP14からステップSP15に移って、このときコードマークを積算したクラスタの内に含まれるGOPを再生する。

#### 【0080】

これにより、1つの完全なGOPが再生される。GOPが再生されると、DMAコントローラ118はステップSP17に移って、トリックプレー再生時に飛び越すべき予め決められた数のクラスタを飛び越し、ステップSP12に移ってハードディスク92からクラスタC8を読み出す。かくして、ハードディスク制御部100においては、GOPを含む複数のクラスタを読み出した後、所定数のクラスタを飛び越すことにより、トリックプレー再生を実行することができる。

#### 【0081】

以上の構成において、ハードディスク制御部100は、ハードディスク92からトランスポートストリームを再生する際に、連続する画像の中から所定数画像を飛び越しながら再生を行うことで、トリックプレー再生（高速再生）を行うことができる。この場合、GOPを構成するピクチャのうち、前後のピクチャを参照することにより画像を生成するようになされたBピクチャやPピクチャは、それ自体で画像を構成し得ないことにより、Iピクチャを含む1つの完全なGOPを再生する必要がある。したがって、トリックプレー再生により飛び越した先のクラスタから再生を開始し、1つの完全なGOPが読み出されるまで連続したクラスタを読むことにより、当該読み出されたGOPを再生することで1GOP分

の完全な画像を再生することができる。

【 0 0 8 2 】

なお、この発明は、ユニークな P I D のマーカーパケットを使って I ピクチャを識別しているため、トランスポートストリームが暗号化されて送られてくるような場合でも対応できる。勿論、トランスポートストリームが暗号化されていない場合でも、適用可能である。

【 0 0 8 3 】

また、上述の例では、I ピクチャの直前及び直後に、スタートマーカーパケットと、エンドマーカーパケットとを付加しているが、I ピクチャの直前に、スタートマーカーパケットだけを設けるようにしても良い。

【 0 0 8 4 】

また、マーカーパケットの位置は、I ピクチャの位置が特定できるなら、I ピクチャの直前及び直後に限定する必要はない。任意の数  $n$  を所定の数として、I ピクチャの  $n$  個前に、マーカーパケットを付加するようにしても良い。

【 0 0 8 5 】

【発明の効果】

この発明によれば、I ピクチャの開始する直前及び直後に、スタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットが送られる。このスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットには、ユニークな P I D が記されている。受信時には、このスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットを識別することで、I ピクチャのビデオパケットが識別される。そして、記録時に、このスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットから、I ピクチャの T S パケットを検出し、この I ピクチャの T S パケットにコードマークを立て、クラスタ単位でハードディスクドライブに記録する際に、コードマークをカウントし、このコードマークのカウント値をインデックス情報に付加するようにしている。再生時には、このインデックス情報から、I ピクチャの T S パケットの含まれているクラスタが分かり、これにより、トリック再生を行うことができる。このように、この発明では、I ピクチャの開始する直前及び直後に、ユニークな P I D のスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットを送って I ピクチャを識

別しているのので、暗号化されたストリームの場合でも対応できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

この発明が適用された情報配信システムの一例のブロック図である。

【図 2】

この発明が適用された情報配信システムにおける送信側の一例のブロック図である。

【図 3】

この発明が適用された情報配信システムにおける受信側の一例のブロック図である。

【図 4】

この発明が適用された情報配信システムにおける受信側のハードディスク制御部の一例のブロック図である。

【図 5】

マーカーパケットの説明に用いる略線図である。

【図 6】

記録処理の説明に用いるフローチャートである。

【図 7】

コードマーク及びインデックスの説明に用いる略線図である。

【図 8】

再生処理の説明に用いるフローチャートである。

【図 9】

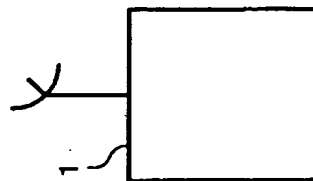
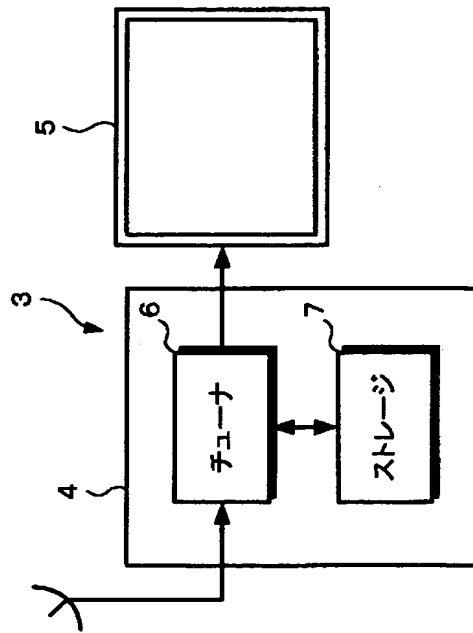
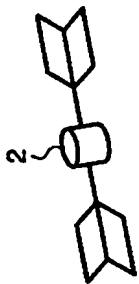
再生処理の説明に用いる略線図である。

【符号の説明】

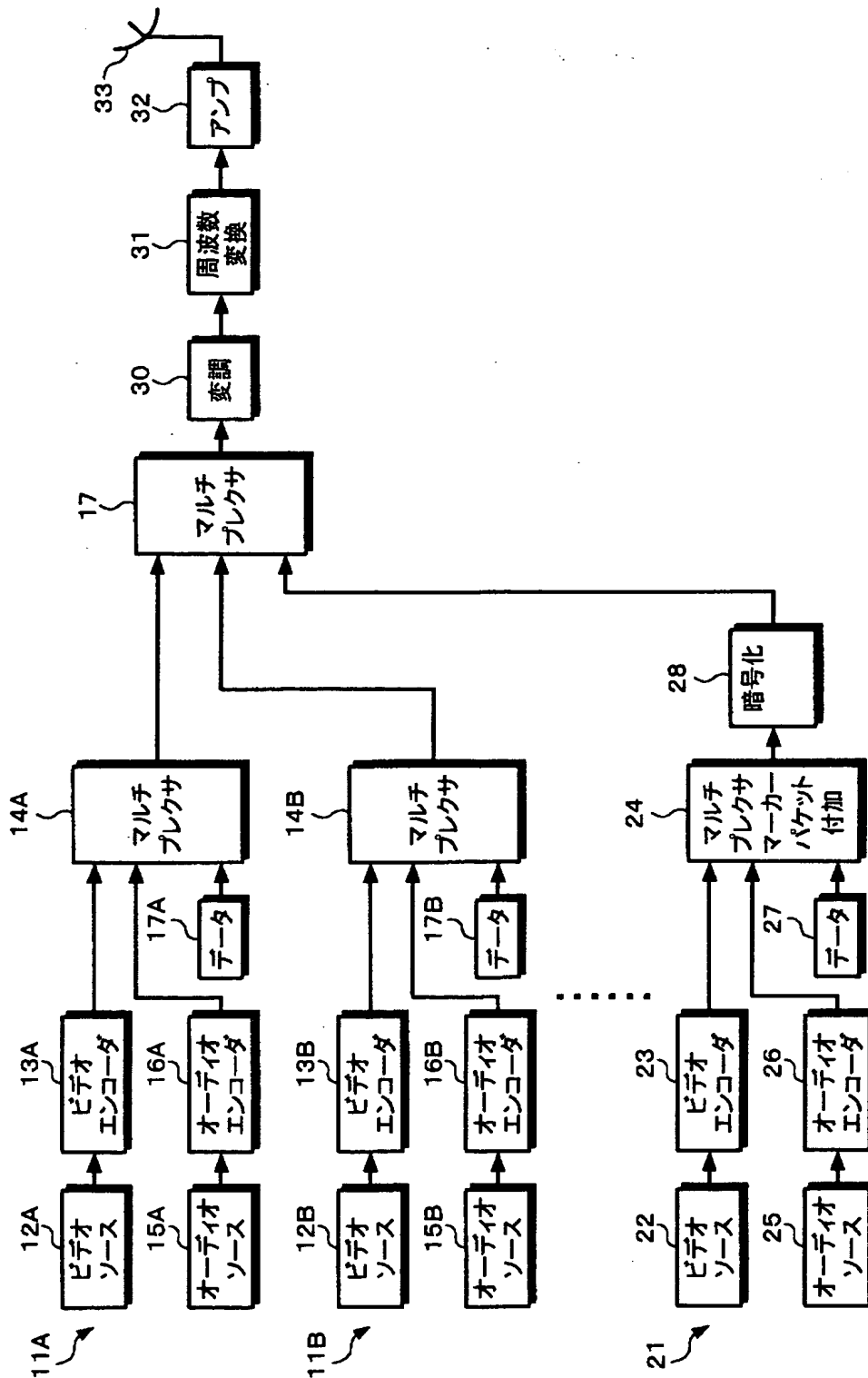
1・・・放送局，2・・・デジタルBS衛星，3・・・受信端末，100・・・ハードディスク制御部，101・・・PIDパーサ

【書類名】 図面

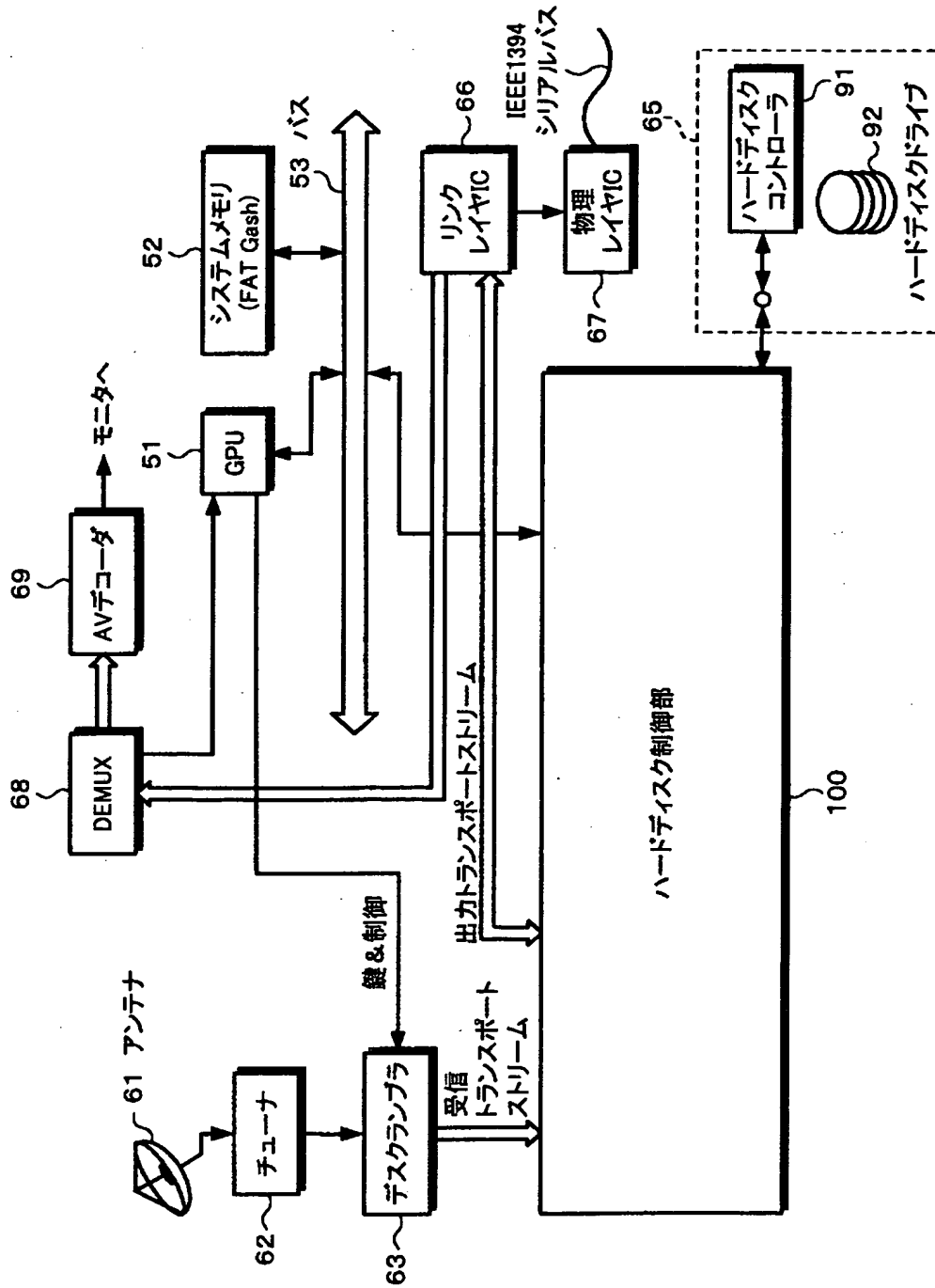
【図 1】



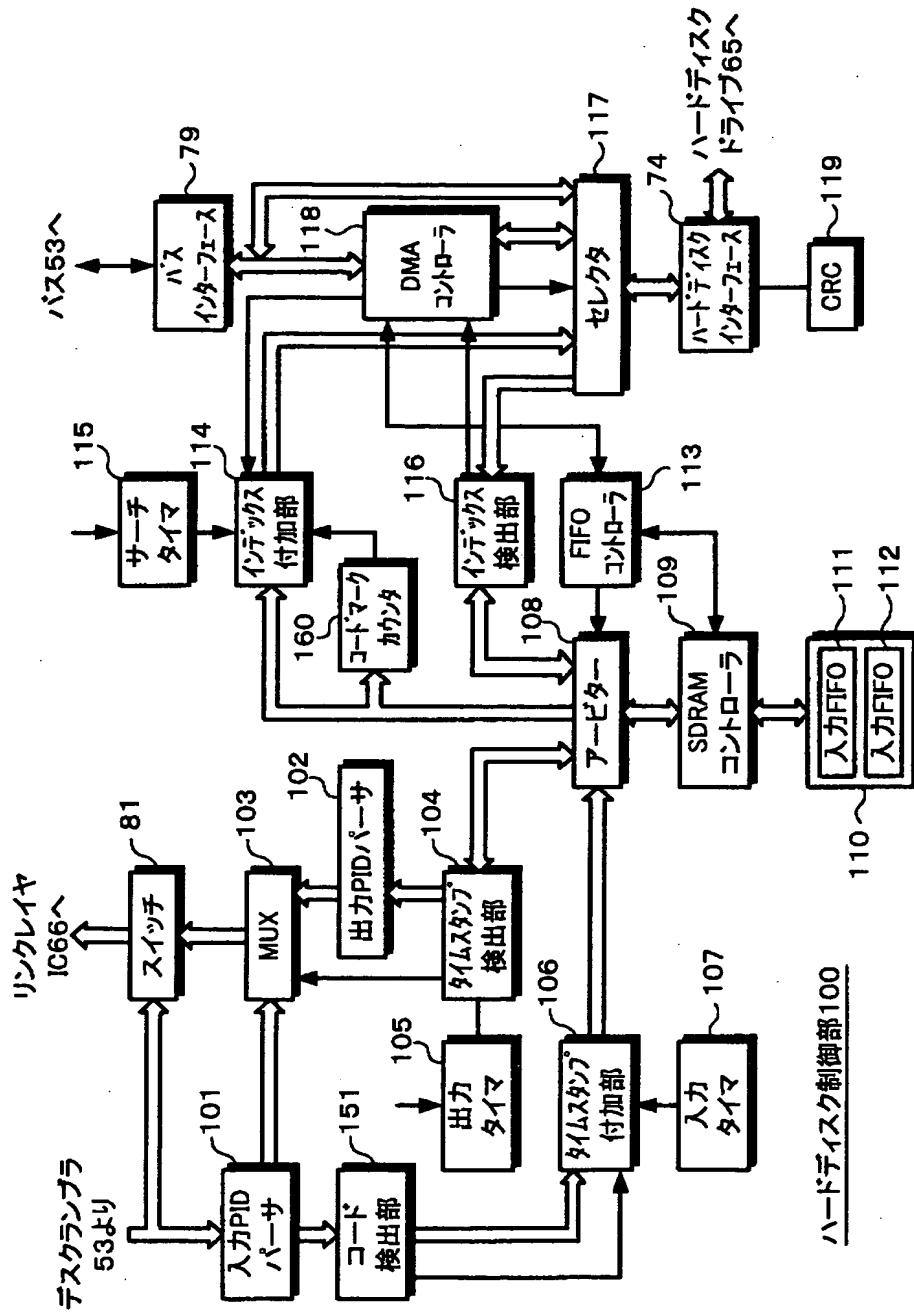
【図 2】



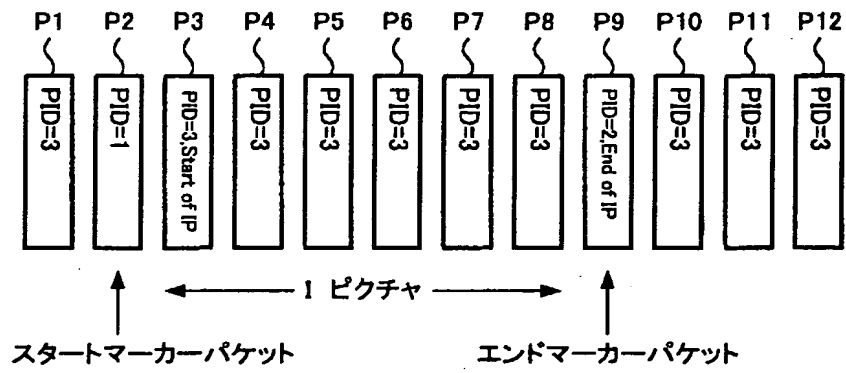
【図 3】



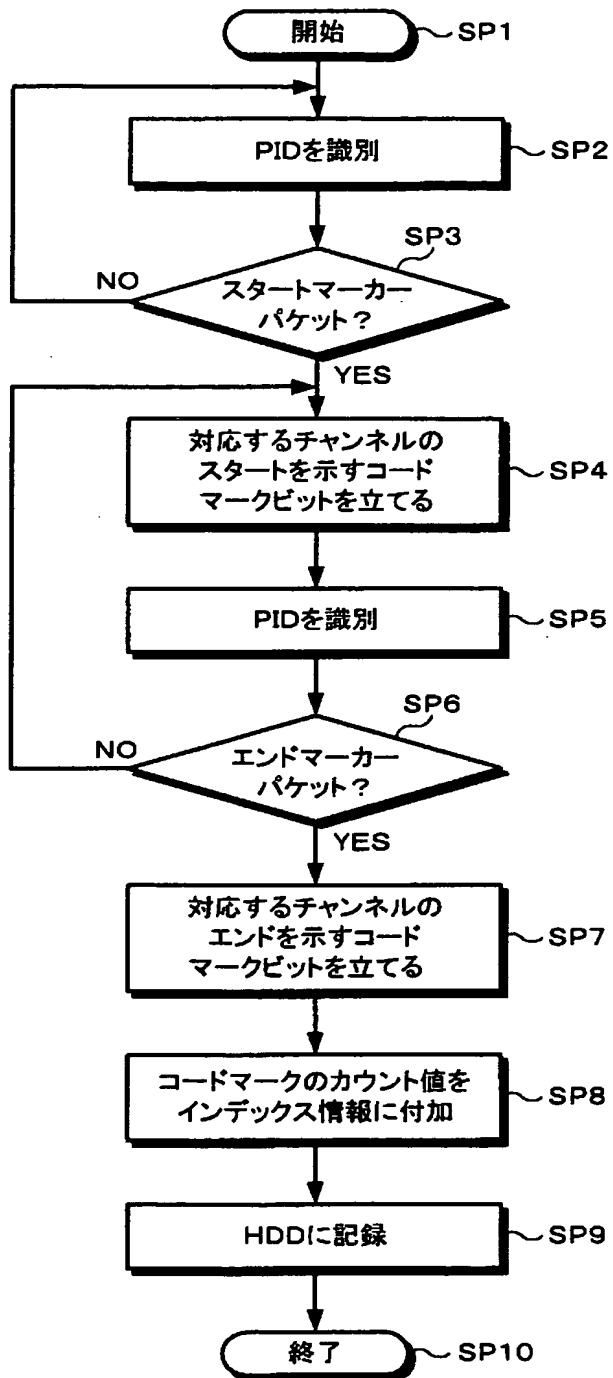
【図 4】



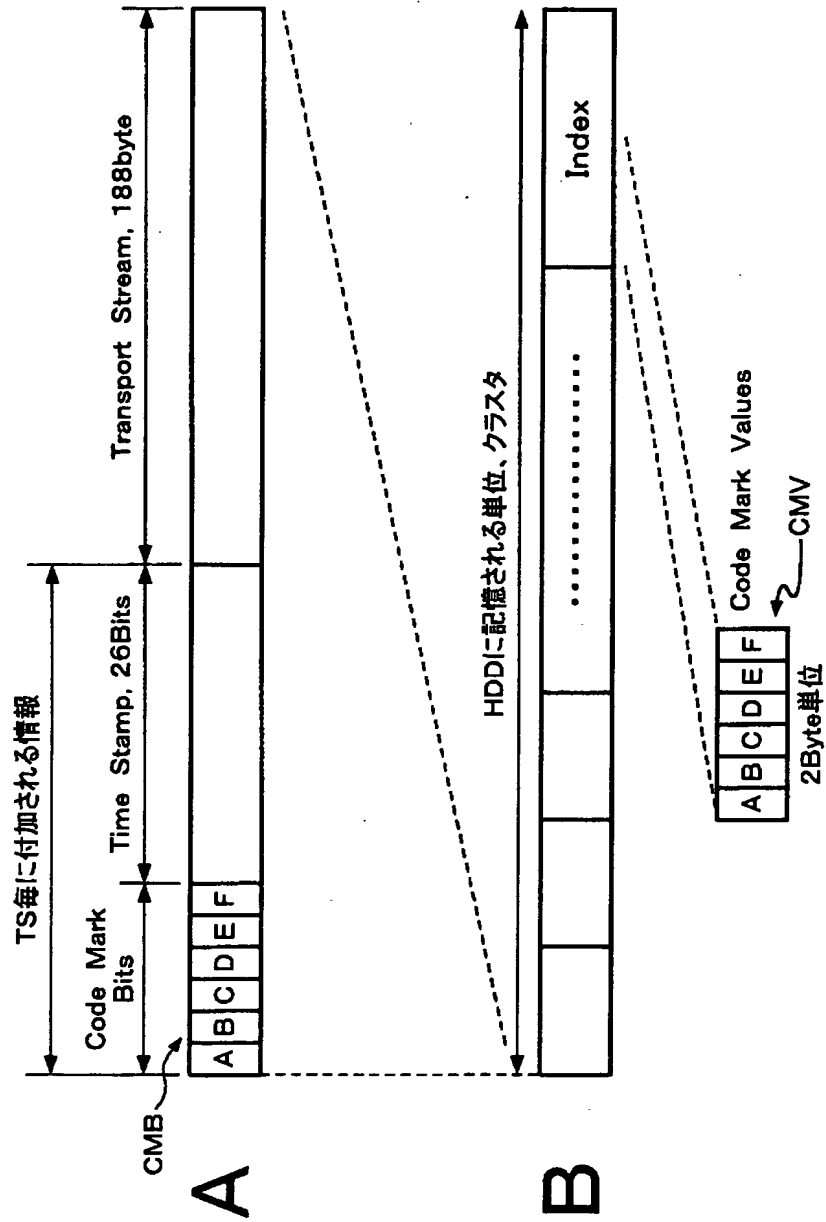
【図 5】



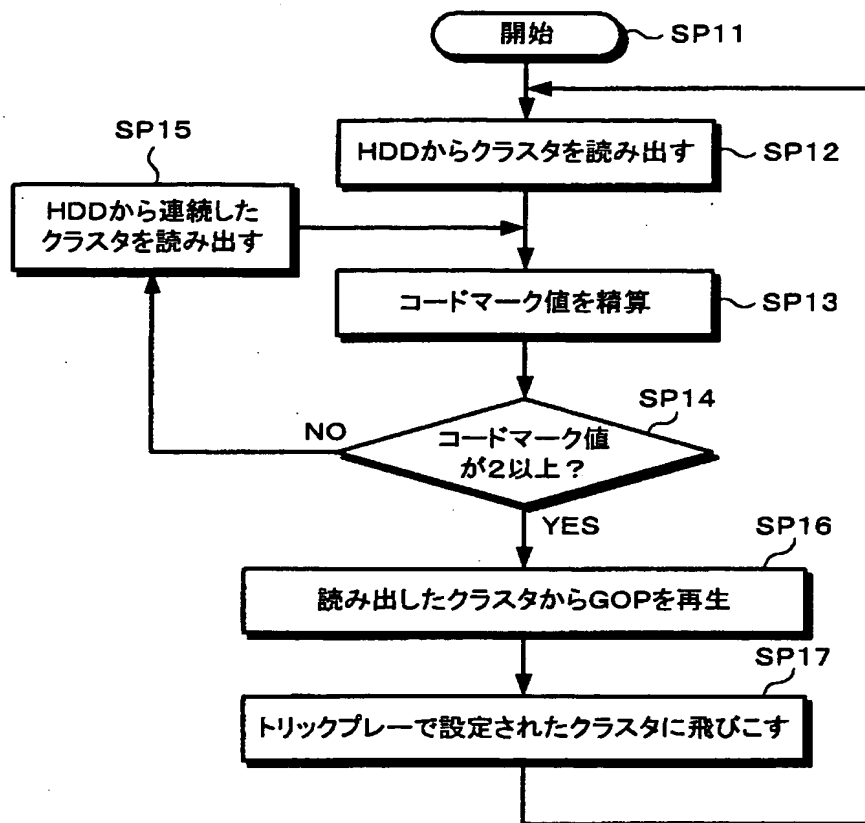
【図 6】



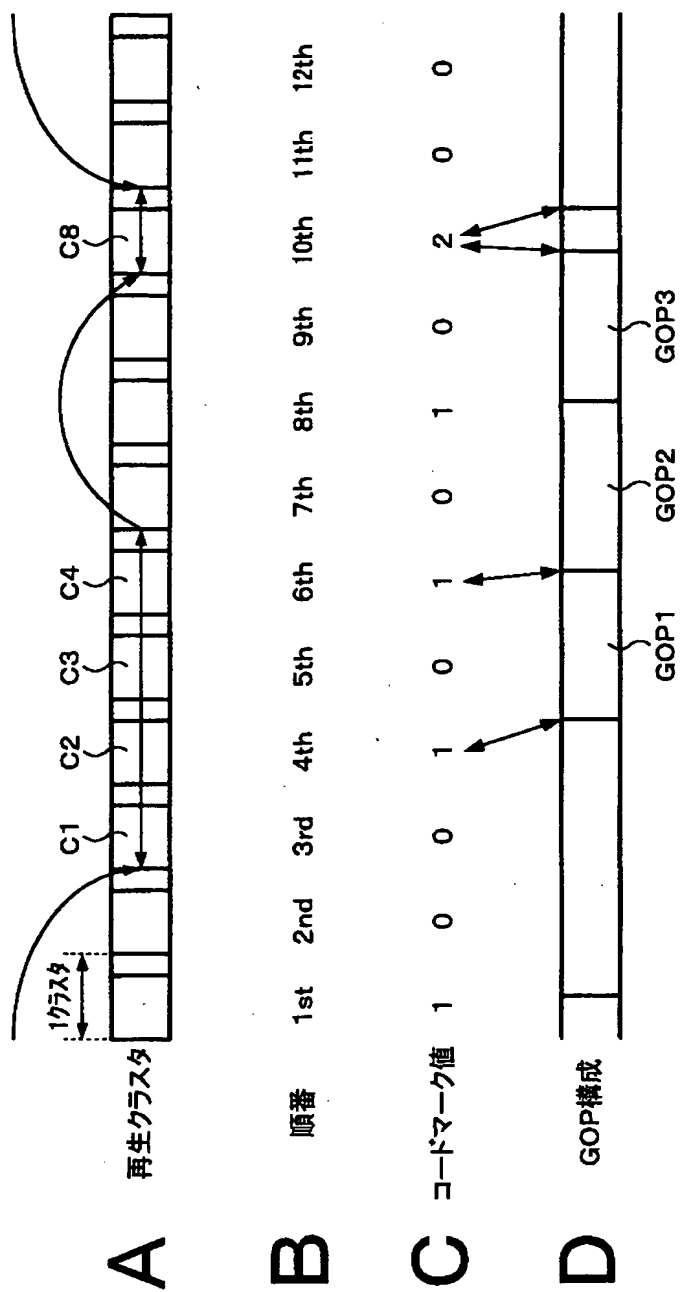
【図 7】



【図 8】



【図9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 例えば、B S放送でコンテンツを配信し、ストレージデバイスに送られてきたT Sストリームを記録するような場合に、ストリームが暗号化されていても、トリック再生が容易に行えるようにする。

【解決手段】 Iピクチャの開始する直前及び直後に、スタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットを送る。このスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットには、ユニークなP I Dが記される。受信時には、このスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットを識別することで、Iピクチャのビデオパケットを識別する。記録時に、このスタートマーカーパケット及びエンドマーカーパケットから、IピクチャのT Sパケットを検出し、このIピクチャのT Sパケットにコードマークを立て、クラスタ単位でハードディスクドライブに記録する際に、コードマークをカウントし、このコードマークのカウント値をインデックス情報に付加する。再生時には、このインデックス情報から、IピクチャのT Sパケットの含まれているクラスタが分かり、これにより、トリック再生を行うことができる。

【選択図】 図5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号  
氏 名 ソニー株式会社